



長照寺だより

わげんあいご 和顔愛語

浄土真宗本願寺派(西本願寺) 摂取山 長照寺 静岡県三島市徳倉1195-817 電話055-988-4242
URL <http://cyoshoji.or.jp> E-mail: info@cyoshoji.or.jp



除夜会

令和2年12月31日



恵みのお参り(七五三のお参り)

令和2年11月7日

久原 実子(なおこ)さん



報恩講

令和2年11月15日

ご講師「園淵 龍雨 師」

「南無(帰命)は弥陀を信じておまかせする心」

(蓮如聖人御一代記聞書)

現代世相に「喝!!」



住職 本持 愚山

一年振りの投稿です。コロナ禍を理由にはいけないと感じつつ、諸々のご法要延期、年中行事の未開催と余儀なくされ、こうした対応に迫られました。従いまして寺報の掲載記事も無いまま一年が過ぎてしまい、楽しみに待っていて下さった皆様には心苦しい次第です。そこで、今までの内容を縮小してでも寺院活動していますとお伝えさせて頂きたく、刊行の運びとなりました。

まず巻頭の世相に「喝!!」をの意味として上段切りをしてみましたと思います。それはコロナ感染の対応策が後手々々になり何時も終息するかです。確かに報道によればワクチン接種により感染拡大は減少に向かっています。しかし人流によつてはまだまだ予断は許されないのが現実です。この様な中で自粛が求められ、個人的には守る事としていいのですが、この思いも最近はどこ吹く風の如く破られている昨今。更に言わせて頂くと、医療従事者方々への配慮不足、それでも近頃やっと医療施設の設置、自治体まかせの現実を知らされてはいますが、「遅い!!」の一言。又、商工業者への経済支援、あらゆる分野の経済活動に対する援助、これも「遅い!!」。首長を選んでいる時ですかと言わざるを得ません。

オリンピック・パラリンピックの開催は私的には大変感動しま

した。しかし、地域事業の開催、歴史的行事開催の有無、青少年の社会的活動実施の有無、小中高大と教育現場の対応策等々。とある小学生が聞いてきました。「オリンピックはやるのになぜ学校の運動会は駄目なの」と。答に窮した事です。子供たちは素直です。その後少年の通う学校は運動会開催に向け色々な対策の基、実施した様です。この話は、コロナ禍に於ける国民生活の有様を国からの伝達事項として後手に回っただけの事と思えるのですがいかがでしょうか。

最近若者達の間で「親ガチャ」と言う言葉が流行している様です。「ガチャ」とは、よくスーパーや商店の入口にある器械で百円、二百円入れてノブを回すと球形のプラスチックに入っているおもちゃ（最近はおもちゃばかりではない）が出てきます。子供たちには欲しい物が出てくれば良いのですが、当たり前外れのある事も知っていて挑戦しています。この器械を親に準えて「親ガチャ」と言っています。世相に合わせますと「政党ガチャ」と言い得て妙ではありませんか。しかし残念です。子供が自分の親を「当たり前外れ」と考える風潮はどこから来たのでしょうか。子は親を選べません。親も子は選べません。しかし教育はできます。生まれてきた環境が劣悪でも育て方によって立派な大人になれるのです。今、世界は歴史始まって依頼の難局を乗り越えようと必死です。

日本の大人達よ、どうか「ガチャ」などと準えない社会作りに力を注ぎ、コロナと戦う日々に進進していきましょう。



～お念仏の灯を絶やさぬように～

副住職 本 持 信 宗



未だコロナ禍の終息がみえぬ状況が続く、ご門徒の皆様におかれましてはご苦労の日々を過ごされているかと存じます。長照寺もご門徒様にお参りいただきご法要や季節の行事などを、コロナ禍以前の様に開催することが難しい状況が続いております。

しかしながら、ご門徒の皆様にご理解を賜り、ご法要の形態を焼香参拝のみというかたちで実施させていただいたところ、多くのご門徒様にご参拝をいただきました。まことに有り難いことです。

本来、私たち浄土真宗はお聴聞（法話を聞く）を大切にするご宗旨です。仏様のお話に耳を傾け、そのお心をいただきます。その為、私たち僧侶は仏様のお心をお取次ぎ（法話）することを肝要としています。ところが、お取次ぎをするにも、お聴聞をするにも本堂に集まらなければなりません。コロナ禍の実状をみれば人が集まることは避けなければなりません。お参りしたいのにそれもかなわない。非常にもどかしい日々です。

しかし、そのような状況下でありながらも宗門（浄土真宗本願寺派）はご門徒の皆様の仏法聴聞のご縁を絶やしてはいけないと動き続けています。その一つがインターネットを活用してお取次ぎ動画を配信するサービスです。この方法により、人々が本堂に参集することなく、個々にご自宅のパソコンやスマートフォンの画面を通じ、感染リスクを伴うことなくお聴聞することが可能となりました。お聴聞を望む多くのご門徒様からは、安心してご法話を聞くことが出来るとご好評いただいているようです。

私も築地本願寺から動画配信のご依頼をいただき、「You Tube 築地本願寺チャンネル」に法話をあげさせていただきました。人がいない本堂で、カメラに向かい話をするのは初めての経験で慣れないところがありましたが、画面を通じてお聴聞くださる皆様のお顔を想像しながら精一杯取り次がせていただきました。

感想としては、やはり本堂に集まって皆様と同じ場所、空間を共有しながら現場の熱量を感じつつお話させていただく方が私は好きです。しかし同時に、現状ではその様なかたちでの法座開催は難しく、動画配信は今できる最適なお聴聞方法であるとも感じました。今後、コロナ禍が終息を迎え、人々が一堂に会することが許される世の中になっても、動画配信はお聴聞方法の一つとして活用され続けると思います。



時代の流れと共にお聴聞にも様々なかたちがあられてきましたが、本堂でのお聴聞とインターネットを用いたお聴聞双方の利点を最大限に活用し、いつの時代も変わらない仏様のお心が皆様に伝わってゆけばと願うばかりです。

合掌



《ひと口法話》



阿弥陀様という仏様は「あなたが心配です」「あなたを救わずにはおれない」とおっしゃってくださる仏様です。

このようなお話があります。

ある地方の山道で、自動車の転落による事故を防ぐために「命落とすな、スピード落とせ」という警告の立て看板を何本も立ててドライバーに注意を促したそうです。

しかし、その看板の効き目は一向になく、地元の警察でも対策に頭を痛めていたそうです。

ところが、一人のお巡りさんのアイデアで、立て看板の文字を「車落とすな、スピード落とせ」と書き換えたところ、事故がとてもなくなくなったというのです。

まさか自分が命にかかわるほどの大事故を起こすとは、ほとんどの人が思っていない。

ですから「命を落とすな」と言われてもピンとこなかったものが「車を落とすな」となると、にわかに現実味を帯びてきて、他人事とは思えなくなって、思わず、アクセルを緩め、ブレーキに足がいくようになったのではないのでしょうか。

こんなお話です。

この話、阿弥陀様のお話を聞かせていただく時の、私たちの聞きかたに少し似ているのかもしれない。

私たちは阿弥陀様がおっしゃってくださる「あなたの事が心配です」「あなたを必ず救います」この「あなた」のところ自分が自分以外の誰かだと思って聞いてしまっているのではないのでしょうか。先ほどの話で、命を落とすつもりのないドライバーに「命を落とすな」といくら言っても、自分の事ではないな、と思って大変な結果を招いてしまいます。

「車を落とすな」と言われて初めて自分事となってアクセルを緩めるのです。

阿弥陀様がおっしゃられる「あなた」とは私以外にありません。皆様方お一人お一人以外ないのです。

この「あなた」のところを「私」と聞かせていただかない限りは、阿弥陀様のお話はどこまでいっても他人事です。

これでは、山道で大変なことになるドライバーと同じです。

阿弥陀様が「あなた」とおっしゃられるところにご自分のお名前を入れて、今一度お一人お一人お聞かせいただきますよう。

合掌

活動報告 令和二年度下期〜令和三年度上期

恵みのお参り(七五三のお参り) 令和二年十月七日

久原 実子(なおこ)さん

※写真は表紙に掲載



報 恩 講

令和二年十一月十五日

ご講師「園淵 龍雨師」

※写真は表紙に掲載



境内清掃作業(中止)

除夜会

令和二年十二月三十一日

※写真は表紙に掲載

修正会

令和三年一月九日

※写真は中段①に掲載



ご正忌報恩講(中止)

春季彼岸会法要

令和三年三月二十日

※写真は中段②に掲載



つきじ一泊(わんぱく)子ども会(中止)

花まつり「お釈迦様の誕生日」 令和三年四月四日

※写真は中段③に掲載



第五十二回門信徒会親睦ゴルフコンペ(中止)

第十一回門信徒会親睦ボウリング大会(中止)

門信徒会定期総会(書面決議)

境内清掃作業・親睦懇親会(中止)

お寺の林間学校(中止)

合同盆法要(焼香参拝) 令和三年八月十三〜十五日

※写真は中段④に掲載



秋季彼岸会法要(焼香参拝) 令和三年九月二十三日



今後の活動予定

令和3年(2021)		
11月21日(日)	報恩講	本堂
12月5日(日)	境内清掃作業	境内
12月31日(金)	除夜会	本堂
令和4年(2022)		
1月4日(火)	修正会・新年会	本堂
3月21日(月)	春季彼岸会法要	本堂
※各行事は、予定ですので、その都度、寺から案内を送付します。 ※定例法座は毎月第3土曜日 午後1時より本堂にて開催。 ※その他に親睦の集いを募集・計画中。		日頃の忙しさから解放されて 気持ちが軽くなる自分を発見 できるかもしれません。

※新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、上記諸行事等を急遽中止もしくは延期させていただく場合があります。

おめでとうございます

令和3(2021)年春の叙勲におきまして、
 長照寺門信徒「こうのどうしげる甲野藤茂さん」が長年の教育功労が顕彰され「瑞寶小綬章」を受章されました。
 ここに門信徒の皆様にご報告させていただきます。



結婚のご報告

令和3年1月16日に入籍いたしましたことを、春彼岸にご参拝くださったご門徒の皆様にご報告させていただきます。
 今後は、若坊守として共に長照寺を護持し、お念仏ご相続につとめて参ります。ご門徒の皆様、よろしくお願いたします。



のぶたか みく
 本持信宗(副住職)・未来(若坊守)



編集後記

- ☆お寺からのお便りは、家族皆さん必ず読んで頂く習慣をつけましょう。
- ☆お寺は「よろず相談処」です。
 日頃悩んでいる事がありましたら、何でもご相談ください。
- ☆次回寺報は、2022年 月発行予定です。

●ご意見・ご要望は、寺務所まで
 〒411-0044三島市徳倉1195-817 TEL・FAX 055-988-3900
 編集人＝菊沢・斎藤・園田・杉山